

令和元年度第1回佐倉市行政評価懇話会 要録

日時	令和元年9月20日(月) ①14時00分～15時30分 ②16時00分～17時00分	場所	①議会棟第4委員会室 ②佐倉市スマートオフィスプレ イス「CO-LABO SAKURA」
出席者	懇話会委員 [委員長] 武藤 博己 [副委員長] 大野 直道 [委員] 川上 いづみ、笹井 万里恵、高橋 義和、藤本 健太郎、古本 賢隆(五十音順)		
	事務局	(企画政策課) 和田課長、齊藤主査、内藤主査補	
	事業担当課	(産業振興課) 鈴木課長、荒木副主幹、塚田主任主事、三田主事	
	その他	傍聴0名	
議 題	<p>I. 平成30年度行政評価懇話会の提言に対する回答について</p> <p>II. 令和元年度行政評価の評価対象について</p> <p>III. 地方創生拠点整備交付金・地方創生推進交付金を活用した事業について</p> <p style="margin-left: 20px;">① 観光拠点施設「佐蘭花」の機能強化による観光産業等活性化プロジェクト(平成28年度申請)の平成30年度実績報告</p> <p style="margin-left: 20px;">② 佐倉市職住近接イノベーション型テレワーク・シェアオフィスプレイス整備事業について(平成30年度申請) *現地視察後当該施設において審議</p> <p>IV. 本年度の開催スケジュールの確認</p>		
決 定 事 項	<p>◆今年度の評価対象について 今年度は5か年の計画期間の4年目の評価となることから達成率が80%未満で、昨年度の評価対象となっていない13指標を評価対象とすることとした。</p> <p>◆今後の開催スケジュール 第2回11月8日(金)14:00～、第3回11月21日(木)14:00～となった。第4回及び第5回の開催日程は今後決定することとした。</p> <p>◆地方創生拠点整備交付金・地方創生推進交付金を活用した事業について 佐倉市職住近接イノベーション型テレワーク・シェアオフィスプレイス整備事業については、総合戦略の目標達成に有効な施設であると評価された。</p>		
内 容			
<p>【議会棟第4委員会室】</p> <p>◆企画政策課長挨拶 本日はお忙しい中、ご出席いただき、感謝申し上げます。 昨年度は、「佐倉市まち・ひと・しごと総合戦略」に掲げる指標のうち、初期値を下回っている20指標について審議いただき、提言していただいた。 今年度は、達成率が低く、昨年度対象にしていない指標について審議いただき、提言していただければと考えている。 また、今年度は、「第2期 佐倉市まち・ひと・しごと総合戦略」の策定も予定している。策定にあたっては、現行の総合戦略を検証し策定する必要があることから、次期総合戦略についても意見をいただければと考えている。 委員各位には、限られた時間の中で、現行の総合戦略について審議いただくとともに、次期総合戦略についても意見をうかがうこととなるが、よろしくをお願いしたい。</p> <p>◆古本委員(株式会社千葉銀行佐倉支店)から挨拶 ※古本委員は、伊藤俊之前支店長の異動により令和元年9月から委員に就任 地方銀行にとっても地方創生や地域貢献は大事な責務。皆様と話し合いながらしっかり検討していきたい。</p>			

◆議事

(1) 平成 30 年度行政評価懇話会の提言に対する回答について

(委員長) 次第の「3 - (1) 平成 30 年度行政評価懇話会の提言に対する回答について」事務局の説明を求める。

(事務局) (事務局より資料 1、資料 2 を説明)

(委員長) ただいまの説明に関して質問があればお願いしたい。

(委員) 当懇話会からの意見 NO. 2 に対する市の回答の中で、「シティプロモーション戦略に基づいてターゲットを絞って行ってまいります」とあるが、誰をターゲットにしているのか。

(事務局) 主に子育て世代などを対象としたシティプロモーションを展開している。

(事務局) 地域を限定した佐倉市の PR も実施している。例えば、神奈川県川崎市や横浜市、東京都江戸川区といった地域の情報誌などに佐倉市の PR を掲載している。

(委員) シティプロモーションが難しいことは承知。しかし情報がしっかりターゲットに届いているかの把握は重要。「具体的な反応を把握できている」と記載されているが、具体的にどのようにしてターゲットの反応を把握しているのか。

(事務局) 東京都など市外で実施するイベントでの来場者アンケートや、SNS での双方向のやり取り、また市民意識調査などで把握している。

(委員) 佐倉市は地域ごとに特性が全く異なる。地域ごとの目標人口の見直しについてはどのような検討がされているのか。

(事務局) 総合戦略の見直しとともに人口ビジョンも見直しを行う。現行の総合戦略の中では市南部の和田地区と弥富地区については人口目標を指標として設定している。今後とも同様の指標を設定するかは議論があるところ。

(委員長) 南部地域の開発許可基準緩和などの規制緩和は、効果があったのか。

(事務局) 規制を緩和しても、不動産業が住宅建設に投資をするかなどの課題がある。基準緩和後、まだ経過期間も殆どないような状況であり、今後の動向を注視していく。

(委員) 先日の台風 15 号では、南部地域において自家用井戸が停電により使用不能となり、相当期間断水となった。給水計画区域の大きな変更がないのであれば、緊急時の対策を含め検討する必要があるのではないか。

(事務局) 地域での取組みとして、農家や建設業者などの発電機を有効利用したと聞いている。地域の方が臨時給水所に殺到するような事態には至らなかったとも聞いている。

(委員) コミュニティによって支えられた面が大きいと思う。

(委員) 佐倉市の子育て支援策について。10 月から幼児教育・保育の無償化が始まる。全国一律で幼児教育・保育が標準化される。佐倉らしい施策をどのように上乘せしていくのか。

(事務局) 佐倉市の特色として、子育て世代支援包括センターの早くからの設置や、産後鬱へのフォロー体制の整備など、相談体制が充実していることがある。

(委員) 目標を括りすぎるのはどうか。例えば公民館、図書館、音楽ホール、美術館、コミュニティーセンターの利用者を一つに括って数値目標を設定している。訪れる目的や事業内容がそれぞれ異なる。括るにしても、もう少し説明を加えるなどすると分かりやすい目標になると思われる。

(委員) 都市部が農村部を支えていかないと、今の佐倉の自然環境を維持できない。佐倉の自然環境が市街地を守っているということを見つめなおす必要もある。農村部を支える事業が必要ではないか。3 次産業側で、市販の価格より高くお米を買って、農業と景観を守る活動を実施している例もあるようだ。例えば商工会議所と連携して佐倉市の農村部の米をもっと買ってもらう仕組みづくりなどの取組みが必要ではないか。

(事務局) 農家や J A の協力により、全校自校式給食で地産地消に取り組んでいる。

(委員) 市が多少の助成をして、企業の社員食堂などで地域の農産物を使ってもらってもらうことなども考えられる。

(事務局) 弥富直売所と J A の協力のもと、弥富産の農産物を市内小中学校に斡旋し、地産地消を推進

する取組みを行っている。

(委員) 農業だけで食べていける環境を作らないと継続的な農業振興に繋がらない。

(委員長) 回答では抽象的な記載もある。今後はもう少し具体的な記載になると良い。

(2) 令和元年度行政評価の評価対象について

(事務局) (資料3を説明) 昨年度は78指標のうち、目標達成に至っていない20指標を対象とした。今年度は5か年の計画期間の4年目の評価となるので、達成率が80%未満で、かつ昨年度の評価対象となっていない13指標を対象としたい。昨年度と今年度を合わせて、目標達成に至っていない指標の全てを評価していただくことになる。具体的に評価してもらう際には、評価対象の指標だけではなく、当該指標が含まれる施策全体も説明していく。

(委員長) この後の議題にある観光拠点施設「佐蘭花」についてはどの指標に位置付けられているのか。

(事務局) 佐蘭花については「印旛沼周辺観光施設の来場者数」(資料3の指標No.22)に関連する。印旛沼周辺観光施設の一つとして佐蘭花を位置付けている。

(委員長) 今年度の評価対象は13指標でよろしいか。

〔「はい」との発言あり。その他異議なし〕

(委員長) それでは今年度の評価対象は13指標とする。

(3) 地方創生拠点整備交付金・地方創生推進交付金を活用した事業について

① 観光拠点施設「佐蘭花」の機能強化による観光産業等活性化プロジェクト(平成28年度申請)の平成30年度実績報告

(事務局) (資料4-1を説明)

(委員長) 説明に関して質問があればお願いしたい。

(委員) 売店スペースを拡張したとのことだが、農産物の売り場を広げたのか、お土産コーナーを充実させたのか。

(事務局) 両方を充実させた。ソフトクリームの販売や、サイクリスト向けの商品も提供するようにした。本事業については、昨年度の議論の中で、総合戦略の目標達成に有効であり、地方創生に資する事業であるとの評価をいただいた。本日の報告の趣旨は、年間売上高などで実績が出ている状況を報告するもの。

(委員) 佐蘭花での農産物直売のあり方をどうするのか。農産物を並べておくだけでいいのか。マルシェかしまとの差別化をどうするのか。

(事務局) 農産物販売については改善の余地があると考えている。

(委員) 農産物の直売はマルシェかしま、お土産の販売は佐蘭花というように棲み分けをしないとならないのではないのか。共倒れしないようにしないと。また、マルシェかしまと佐蘭花の連携も進めてほしい。以前、佐蘭花の駐車場が満車の時にマルシェかしまがお休みで、マルシェかしまの駐車場が使えればと思ったことがある。

(委員長) 質疑は以上とする。

(4) 本年度の開催スケジュールの確認

(事務局) (資料5を説明) 今年度は第2次「佐倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定を予定している。当懇話会は外部評価機関ではあるが、次期総合戦略についても、今後骨子などを示し、意見をいただきたいと考えている。

※ 委員と事務局間で調整し、第2回11月8日(金)14:00～、第3回11月21日(木)14:00～と

なった。第4回及び第5回の開催日程は今後決定することとした。

【現地視察：佐倉市スマートオフィスプレイス「CO-LABO SAKURA」】

(5) 地方創生拠点整備交付金・地方創生推進交付金を活用した事業について

② 佐倉市職住近接イノベーション型テレワーク・シェアオフィスプレイス整備事業について（平成30年度申請）

（事務局及び産業振興課）（資料4-2を説明。その後、施設内を案内）

（委員長）佐倉市職住近接イノベーション型テレワーク・シェアオフィスプレイス整備事業について、総合戦略の実現を目指す取組として有効であるか評価をしたい。質問や今後の活用への意見などがあればお願いしたい。

（産業振興課）コワーキングスペースとシェアオフィスが一緒のところは、県内では今のところない。利用者は市内の方が多い。都内、福岡、愛知の方も利用しているが、出張のときに利用しているようだ。コワーキングスペースの現時点の登録者数は約140名。増やしていきたい。

（委員）どういう業種をターゲットとしているのか。

（産業振興課）特に業種は限定していないが、起業する方々に利用してもらえればと考えている。コワーキングスペースの利用から、シェアオフィス、そして空き店舗の利用に繋がっていけばと考えている。

（委員）コワーキングスペースの登録者は現時点で約140名とのことだが、業種内訳はどうなっているのか。

（産業振興課）パソコンで仕事している人や、テレワークしている人など、主に事務職の方々が利用されている。男性7割、女性3割。30代30%、40代36%で、30～40代の利用が多い。

（委員）本施設の賃貸料（テナント料）はどの程度か。

（事務局・産業振興課）周辺と比較すると安いとは聞いている。地域の民間企業にも協力いただきながら実施していこうという趣旨で進めた。

（事務局）地方創生拠点整備交付金等で整備したことから最初の10年は市で運営していくが、10年後には民間に譲渡・売却できるか検討したい。民間経営にメリットのある、採算が合う事業を目指していく。

（委員）多様な働き方を支えることはこれからの都市政策の根幹なので、積極的に取り組んでほしい。指標については、利用者数の増加だけでなく、利用時間・稼働時間を加えてもいいのでは。一人が数時間しか使わないこともある。利用時間や稼働時間なども参考的な数値としてあってもよいと考える。きちんと評価できる指標が望ましい。

（委員長）類似施設を10年程前に視察したことがあるが、ある自治体の市民活動センターでもシェアオフィスを展開していた。賃料が安いためのほとんどNPOが借りていた。この施設は起業を目指す方が対象なので目的は異なるが、NPOの方々や市民活動で使うことは可能か。

（事務局）起業する方だけでなく、アクティブシニアや、外国人、副業する主婦、自治会活動などにも使えるように考えている。

（委員）稼働率と法人登記した数を実績として重要だと思う。佐倉市には市民公益活動サポートセンターがあって、NPOの方々はその利用していると聞いている。また、利用しやすい料金体系となることが利用者の増につながると考えるが如何か。

（事務局）仮に指定管理制度を導入し利用料金制を採用した場合、施設の利用料金は条例で定められた額の範囲内で、指定管理者が決めることになる。利用料金制については、利用料金が指定管理者の収入になるので、指定管理者のモチベーションを高め経営努力を促すことが期待できる。

（産業振興課）本施設の指定管理者の募集については、公募を締め切ったところ。

（委員長）現時点ではコワーキングの月額利用者は19人。本年4月にオープンしたばかりということもあるが、今後、来年の東京オリンピック・パラリンピックに向かってテレワークも増えると思われるので、来年に向かって利用者数が増える可能性はあると考える。

まだ実績が十分に出ていない状況ではあるが、総合戦略の目標達成に有効な施設であるか評価をお願い

いしたい。

(委員) 産業構造の変化や、経済構造の変化、働き方の変化、女性の社会進出など、世の中の仕組みが変わってきている。U-tuber で2千万円、3千万円と稼ぐ時代になっている。世の中の経済活動の仕組みが変わってきている中で、県下でもまだほとんど取り組まれていないこのような新しい施策を積極的に取り入れて、地域を活性化していこうとする市の姿勢を何よりも評価したい。情報発信に力をいれ、関係機関とも連携しながらこの施設のポテンシャルを高めていってほしい。

(委員長) コワーキングスペースの利用料についてはナイトプランがあって夜の方が安くなっているが、子どもが学校に行っている間に利用したい主婦にとっては、むしろ昼が安い方が望ましい。昼間の時間帯の料金を工夫してはどうか。

(委員) ナイトプランによって学生が集まるということは考えられないか。

(委員長) 今は大学に自習できるスペースが増えた。遅くまで開いていたりする。24時間空いている図書館もあったりする。

それでは総合戦略の目標達成に有効な施設であるとの結論でよろしいか。

〔「異議なし」との発言あり〕

(委員長) では総合戦略の目標達成に有効な施設であるとの結論としたい。

以上で本日予定していた議事は全て終了。他に全体を通して何かあるか。

〔発言なし〕

(委員長) 以上をもって令和元年度第1回行政評価懇話会を閉会する。